

# 「大学院生物資源環境科学府修了生の 満足度アンケート」の分析結果報告書

九州大学大学院生物資源環境科学府学務委員会

平成 25 年 2 月

## 目 次

1. アンケートの概要	1
2. アンケートの分析結果	
1) 学府全体	4
2) 生物資源開発管理学専攻	6
3) 植物資源科学専攻	8
4) 生物機能科学専攻	10
5) 動物資源科学専攻	12
6) 農業資源経済学専攻	14
7) 生産環境科学専攻	16
8) 森林資源科学専攻	18
9) 遺伝子資源工学専攻	20

## 1. アンケートの概要

大学院生物資源環境科学府学務委員会では、平成 19 年度より毎年度、生物資源環境科学府修了生を対象に、在学時の満足度について無記名のアンケートを行っている。本報告書は、平成 19 年度から平成 22 年度における 4 年間のアンケート結果について、分析を行ったものである。

アンケートに当たっては、次頁で図示したアンケート票を使用した。アンケート票に示されているとおり、質問項目は「教育カリキュラム」、「教員について」、「学習・研究環境、進学・就職支援」及び「総合判定」に大きく分類され、修了生が大学に対して感じた満足度を、様々な視点から分析できるように構成されている。

アンケート結果を専攻ごとに集計したものが、次節の図である。図を参照するに当たっては、図の棒グラフ中の数値が、アンケートの各質問項目に対する修了生の回答率を表すことに留意されたい。なお、図の上には、平成 19 年度から平成 22 年度における、学府全体または各専攻の修了者数とアンケート回収率を表記している。

各専攻におけるアンケート結果の分析は、学府全体の結果と比較する形で行った。具体的には、質問項目ごとに、回答番号 3（おおむね有意義であった・おおむね満足・やや当てはまる）及び回答番号 4（大変有意義であった・満足・当てはまる）と回答した修了者の割合について、各専攻と学府全体の差（＝各専攻の数値－学府全体の数値）を求め、その差を次のように表記した。

+10 ポイント以上 : 極めて高い

+5～+10 ポイント : 高い

-5～+5 ポイント : 同程度

-10～-5 ポイント : 低い

-10 ポイント以下 : 特に低い

※ただし、同程度の範囲内で高低を言う場合は、僅かに高い、僅かに低いとする。

つまり、各専攻における満足度が、学府全体と比較してどの程度高かったのか（低かったのか）を、統一的な評価基準をもって分析した。また、分析結果から明らかになった学府全体及び各専攻における今後の課題についても、合わせて記述した。

なお、平成 22 年度に行われた教育組織の再編により、大学院生物資源環境科学府の専攻は大きく再編された。そのため、本報告書の内容が必ずしも現在の専攻に対応していない点については、特に留意されたい。

## 図 満足度アンケート票

学生(院)の満足度アンケート(解答はすべて1~4の番号でお答え下さい)

所属する専攻の番号に○をつけてください。

- |                |              |             |
|----------------|--------------|-------------|
| 1. 生物資源開発管理学専攻 | 2. 植物資源科学専攻  | 3. 生物機能科学専攻 |
| 4. 動物資源科学専攻    | 5. 農業資源経済学専攻 | 6. 生産環境科学専攻 |
| 7. 森林資源科学専攻    | 8. 遺伝子資源工学専攻 |             |

### 1. 教育カリキュラム

Q.1-A: 学府での授業はどの程度有意義だったと思いますか？

1. 有意義でなかった 2. あまり有意義でなかった 3. おおむね有意義であった  
4. 大変有意義であった

Q.1-B: 準備された学府教育の授業科目数や種類にどの程度満足できましたか？

1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足

Q.1-C: 学府での研究はどの程度有意義だったと思いますか？

1. 有意義でなかった 2. あまり有意義でなかった 3. おおむね有意義であった  
4. 大変有意義であった

### 2. 教員について 下記に挙げた項目はあなたが受けた教育にどの程度あてはまりますか？

(1. あてはまらない 2. あまり当てはまらない 3. やや当てはまる 4. 当てはまる)

Q.2-A: 勉学・研究の動機づけをしてくれる教員に出会った ( 1 2 3 4 )

Q.2-B: 研究テーマや方向性に対して十分な助言・討論をしてくれる教員に出会った  
( 1 2 3 4 )

Q.2-C: 情熱をもって研究の指導・支援をしてくれる教員に出会った ( 1 2 3 4 )

Q.2-D: 良好な人間関係を築ける教員に出会った ( 1 2 3 4 )

### 3. 学習・研究環境、進学・就職支援 下記の項目についてどの程度満足していますか？

(1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足)

Q.3-A: 所属する研究室の雰囲気 ( 1 2 3 4 )

Q.3-B: 専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション ( 1 2 3 4 )

Q.3-C: 研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備 ( 1 2 3 4 )

Q.3-D: 進学や就職に対する大学側の支援 ( 1 2 3 4 )

### 4. 総合判定

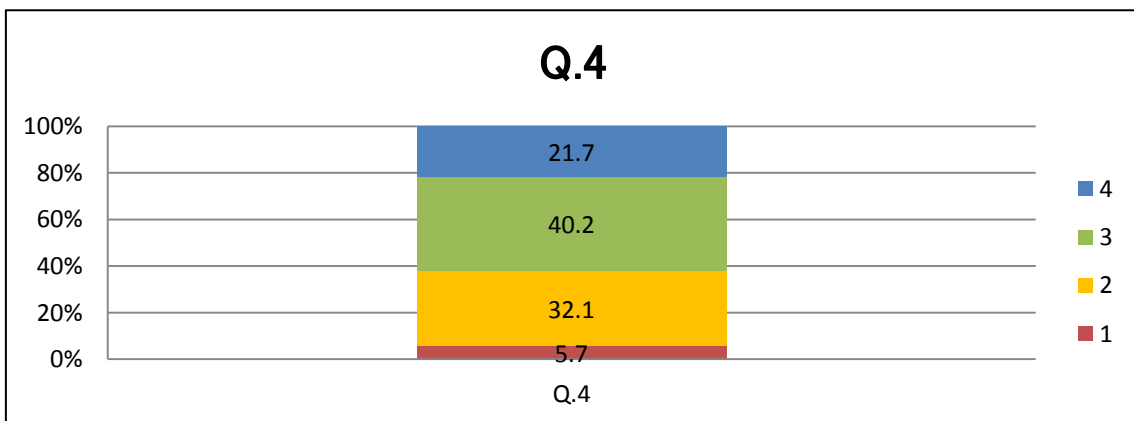
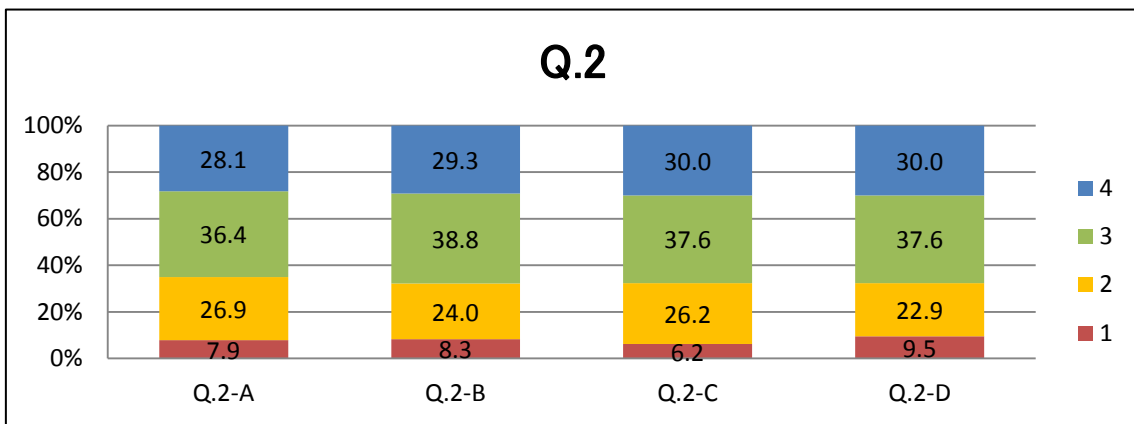
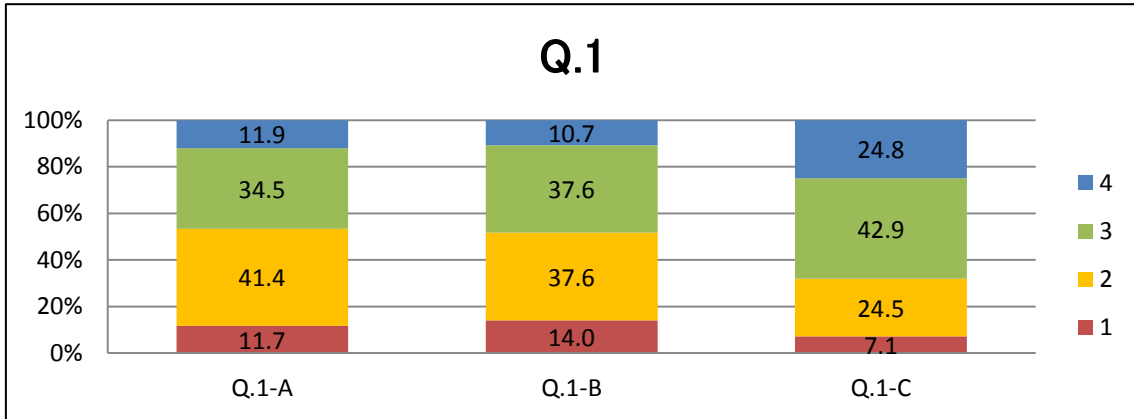
Q.4: 総合的に判断して、あなたはこの学府を選択して満足していますか・

1. 不満 2. やや不満 3. おおむね満足 4. 満足

自由筆記欄

## 2. アンケートの分析結果

1) 学府全体 (回収率 50.5%, 修了者数 832 人)



### 【分析結果】

学府全体では、総合判定で62%の学生が満足している。

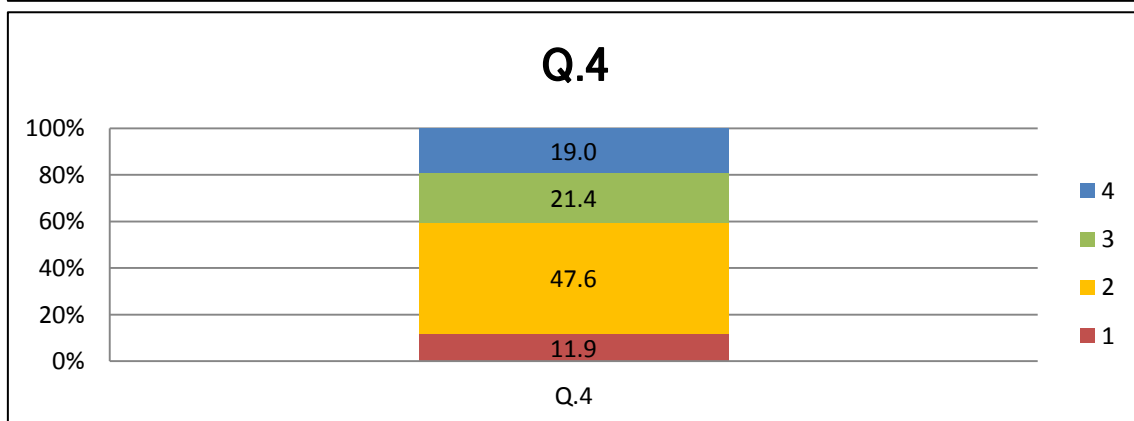
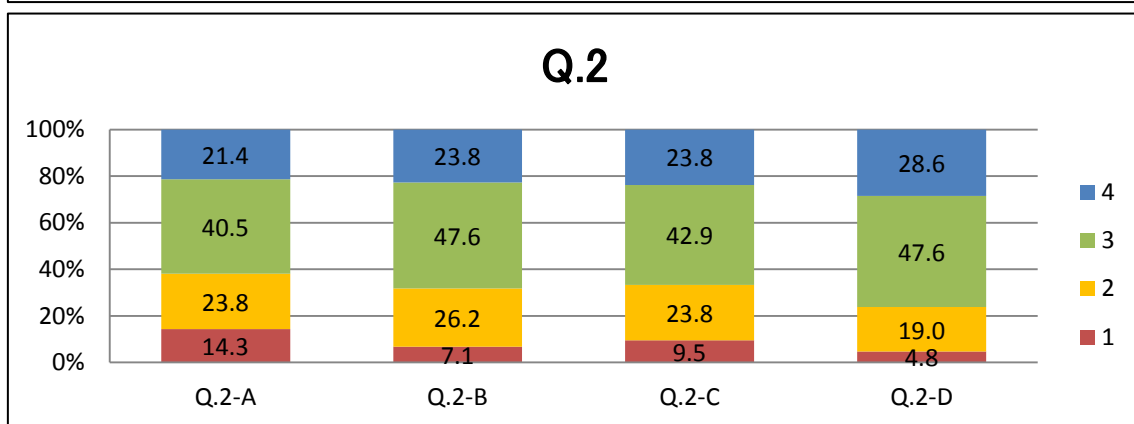
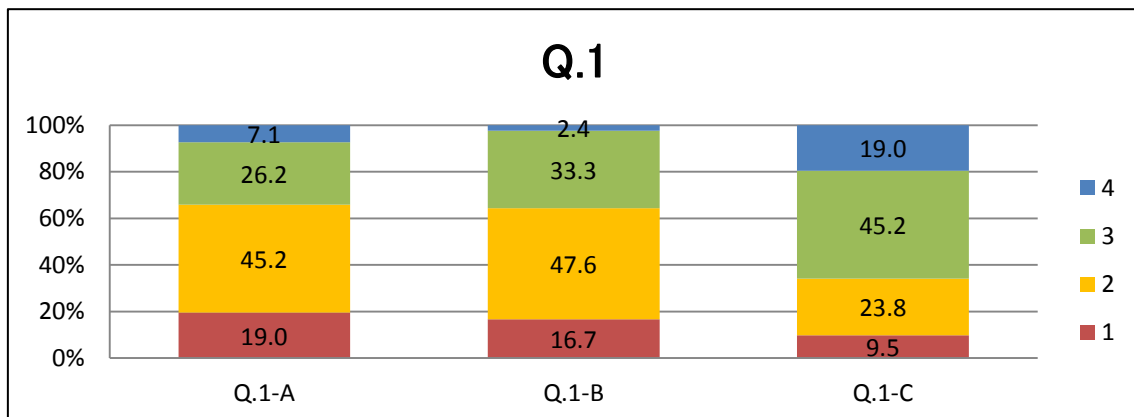
60%以上の学生が満足している項目は、「学府での研究」、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」、「研究テーマや方向性に対して十分な助言・討論をしてくれる教員」、「情熱をもって研究の指導・支援をしてくれる教員」、「良好な人間関係を築ける教員」及び「所属する研究室の雰囲気」である。

一方、「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」では、50%以上の学生が満足していない。

### 【今後の課題】

修了生の50%以上が満足していない「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関して、改善を図ることが今後の課題である。「学府での授業」及び「準備された学府教育の授業科目数や種類」に関しては、平成22年度に実施した学府教育組織の再編にともない、大幅な見直しを行った。したがって、今後は、その見直しが修了生の満足度を高めているか、検証する必要がある。一方、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関しては、学府全体及び各専攻で重層的に改善に取り組むことが必要であろう。

2) 生物資源開発管理学専攻 (回収率 56.8%, 修了者数 74 人)





### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は特に低い。

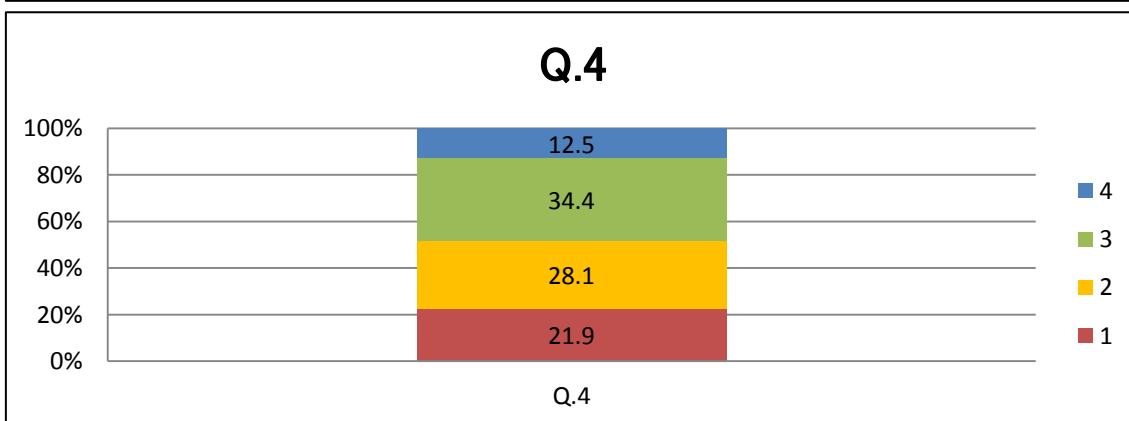
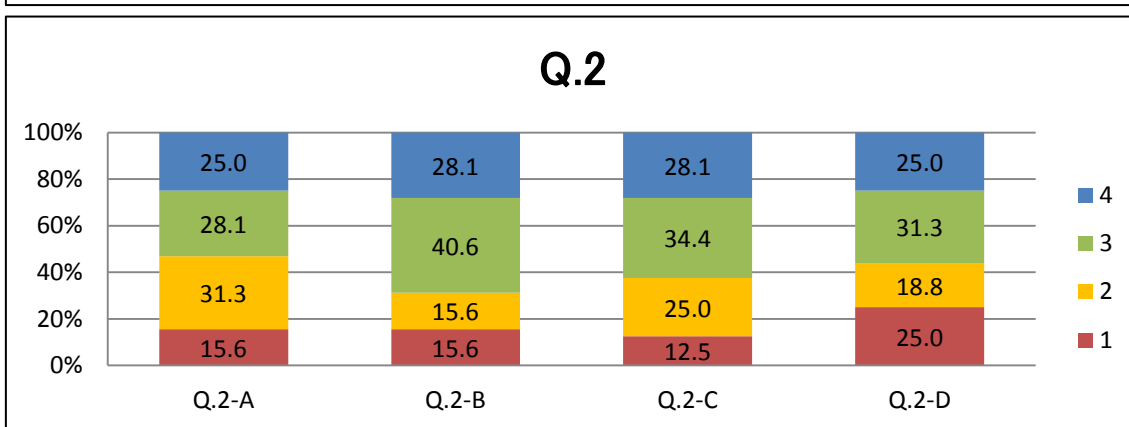
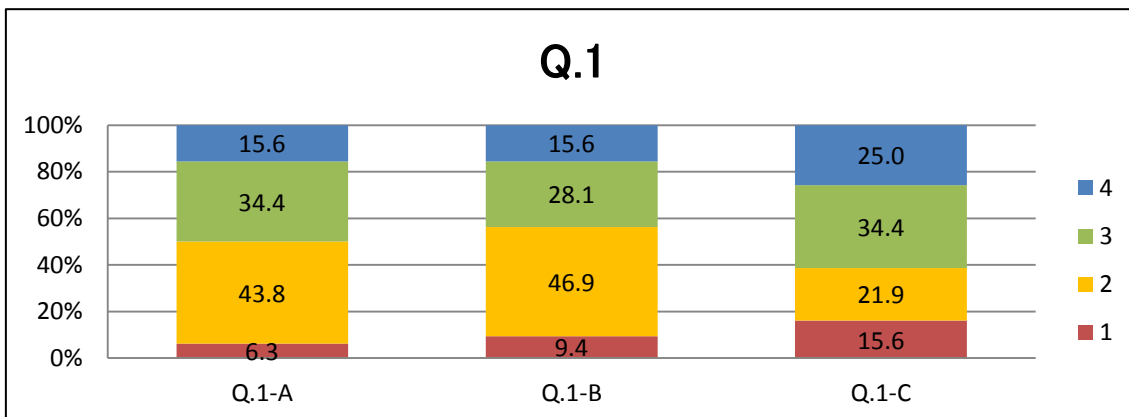
しかし、「所属する研究室の雰囲気」に関する満足度は、学府全体と比較して極めて高い。また、「良好な人間関係を築ける教員」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関する満足度も高い。

一方、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」に関する満足度は、学府全体と比較して低い。また、「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」及び「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度は特に低い。

### 【今後の課題】

学府全体と比較して満足度が特に低かった「学府での授業はどの程度有意義だった」及び「準備された学府教育の授業科目数や種類にどの程度満足できた」と、満足度が低かった「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」に関しては、平成 22 年度の学府教育組織の再編にともない大幅な見直しを行った教育カリキュラムに関する項目（コア科目、アドバンス科目、課題プロジェクト演習、演習科目、副専攻科目）が、満足度の改善にどのような影響を与えているか、注意深く検証を行う必要がある。また、「研究室やキャンパスの学習研究施設・設備」に関しては、満足度がより高くなるよう改善をしていくことが必要であろう。満足度の低い項目の改善に加え、満足度の高い項目についてもよりよくなるように改善することによって、「総合判定」の満足度が高くなるように努力をしていく必要がある。

3) 植物資源科学専攻 (回収率 32.7%, 修了者数 98 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は特に低い。

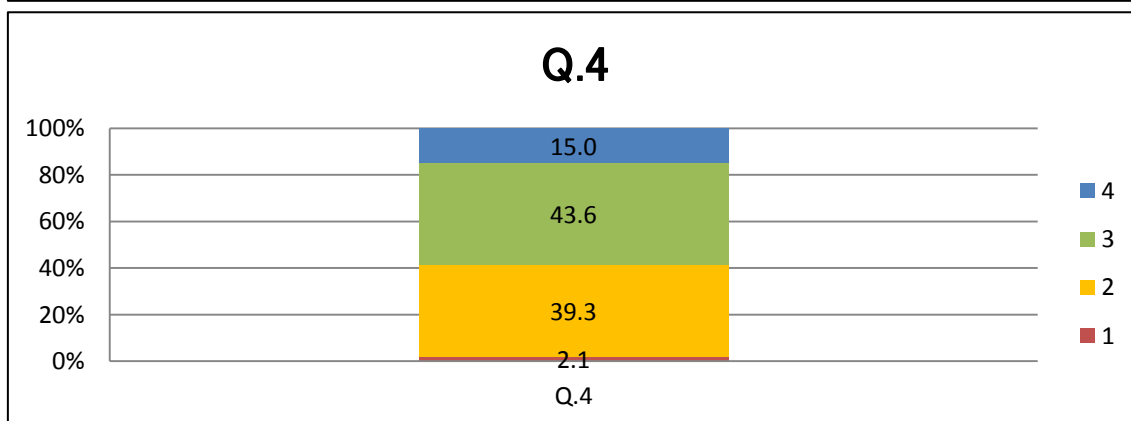
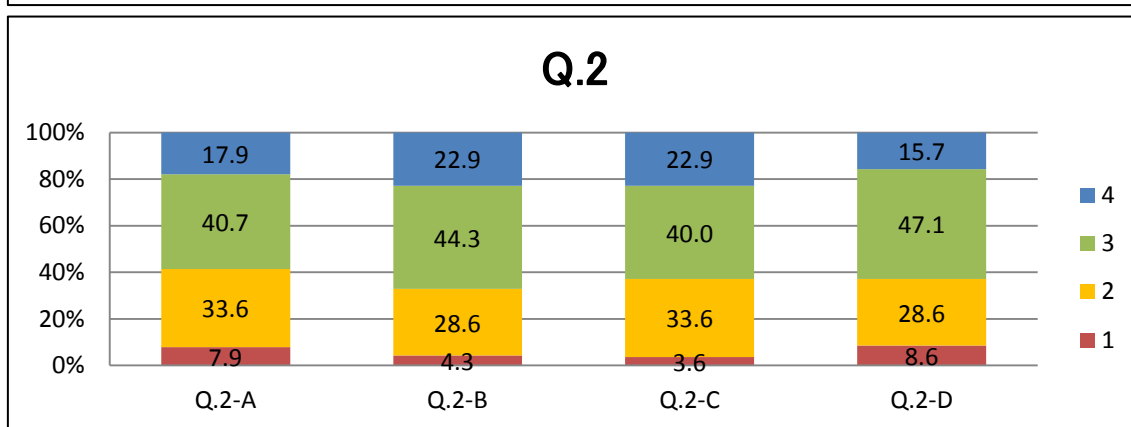
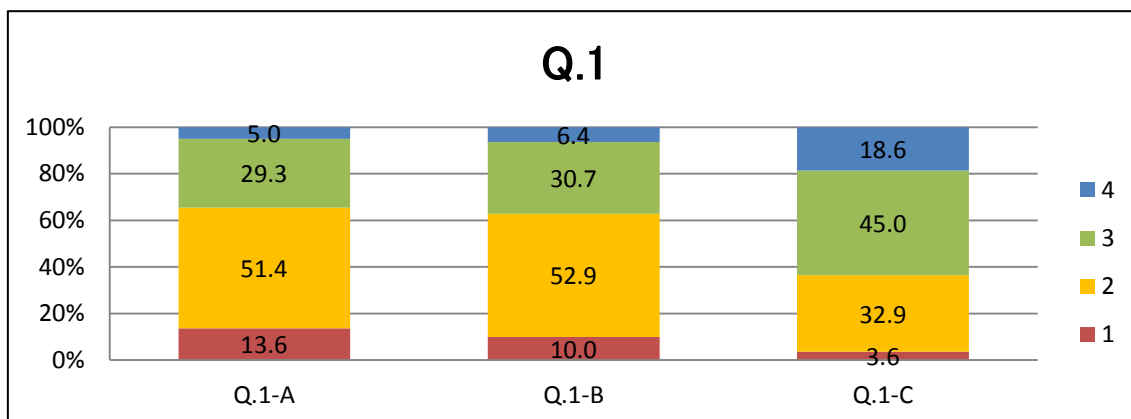
「学府での研究」、「情熱をもって研究の指導・支援をしてくれる教員」及び「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度が、学府全体と比較して低い。また、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」、「良好な人間関係を築ける教員」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関する満足度は特に低い。

なお、そもそもアンケートの回収率が全専攻に比べ著しく低いので、調査結果が卒業生の満足度を正しく反映していない可能性があり、大学院教育について好意的な卒業生の割合はさらに低いことも危惧される。

### 【今後の課題】

学府全体と比較して満足度は低かった。研究の意義や動機づけ、教員の情熱や人間関係、施設・設備、進学・就職の支援など、卒業生の不満は学生生活全般にわたっている。このことから、教員個人が学生とどう向き合うかということだけでなく、専攻における研究指導に関する体制などについて組織的な取り組みが必要であったことが示唆される。平成 22 年度の大学院再編によって各研究室はそれぞれ専門的な研究をより尖鋭的に進めることができる新専攻に組み込まれたと考えられ、その点では組織的な取り組みによる研究指導体制の改善が期待されるが、個々の研究室および各教員についても、その教育活動の「底上げ」への努力が望まれる。

4) 生物機能科学専攻 (回収率 62.8%, 修了者数 223 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は僅かに低い。

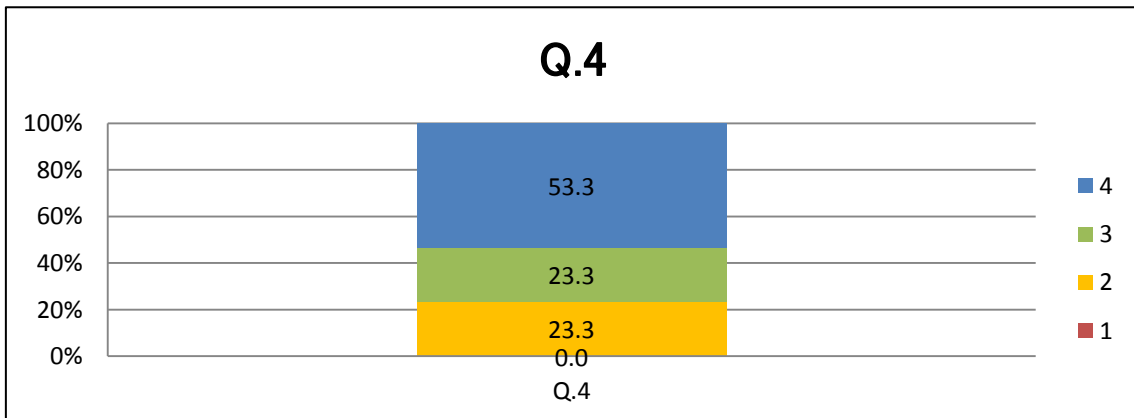
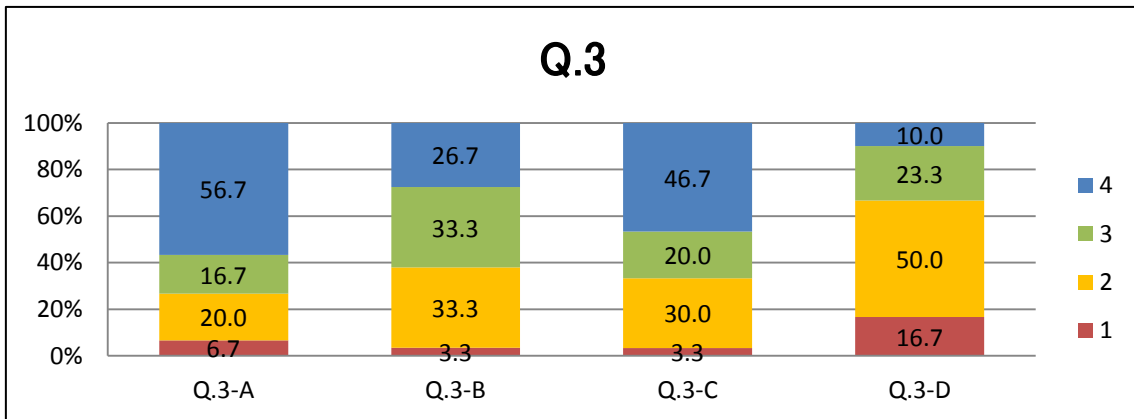
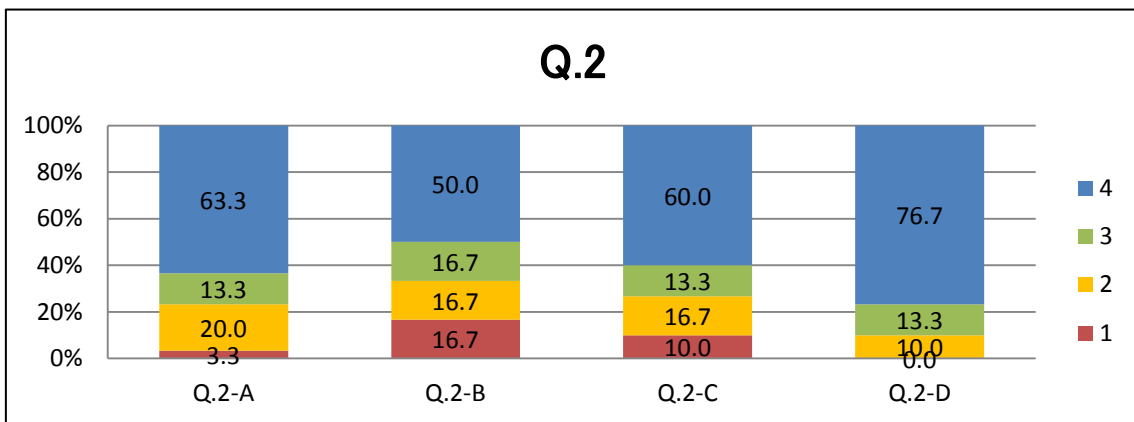
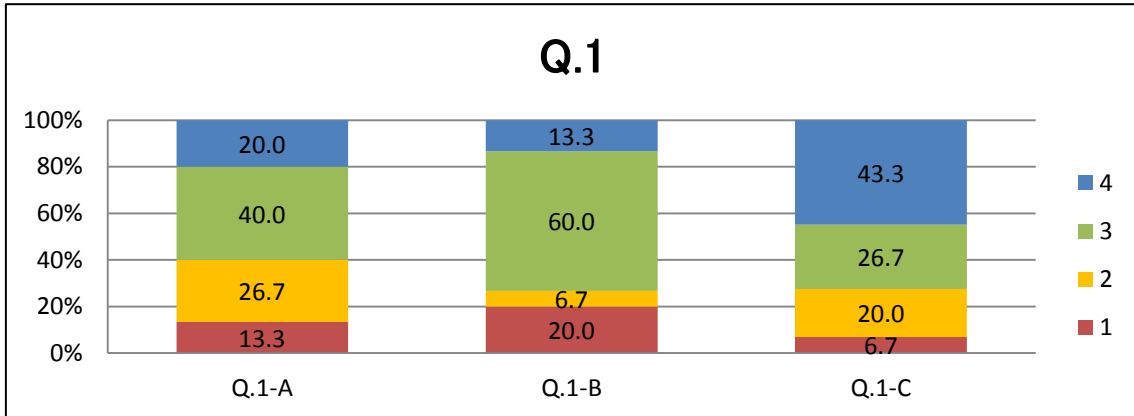
しかし、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」及び「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」に関する満足度は、学府全体と比較して低い。また、「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「所属する研究室の雰囲気」及び「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度は特に低い。

全体的に見て4段階評価の2（やや不満、あまり有意義ではなかった）を選択している割合が全専攻と比較して多かった。ただ、年度別に分析すると前半二年（H19,20年度）の満足度に比べて後半二年（H21,22年度）の満足度は全体的に高くなっていた。

### 【今後の課題】

アンケートの分析結果から本専攻の修了時点での満足度が他専攻に比べると全体的に低い傾向にあることが分かった。この点に関しては生物機能科学専攻の学生数が他専攻に比べると多かったことに起因する可能性がある。また、全体的に教員と学生とのコミュニケーションが不足していたことも考えられるので、今後はこれらの点に関して、各教員が留意していく必要がある。さらに、自由筆記欄に学生側から就職活動を支援して欲しいという内容のコメントが幾つかあった。この点に関しても、しばらくは就職活動に相当な時間を必要とすることが予想されるので、新専攻においても留意する必要がある。

5) 動物資源科学専攻 (回収率 37.5%, 修了者数 80 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は極めて高い。

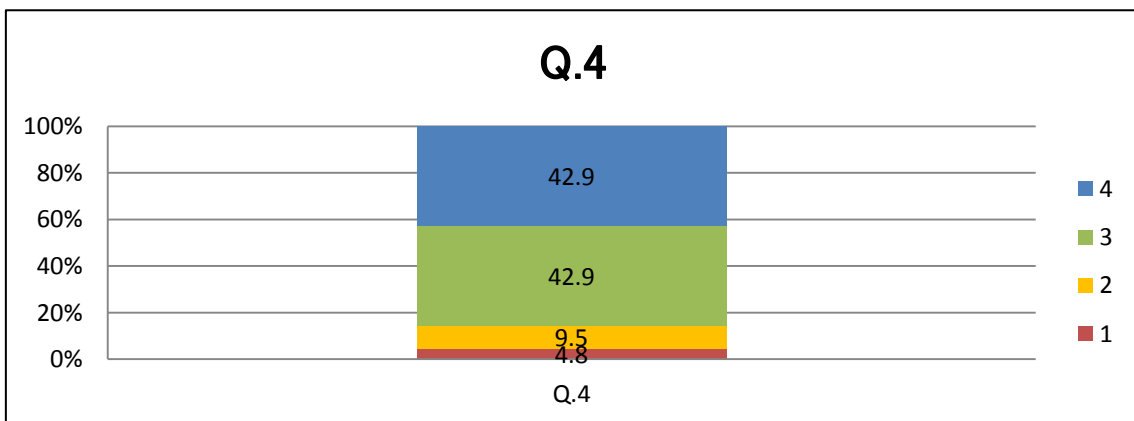
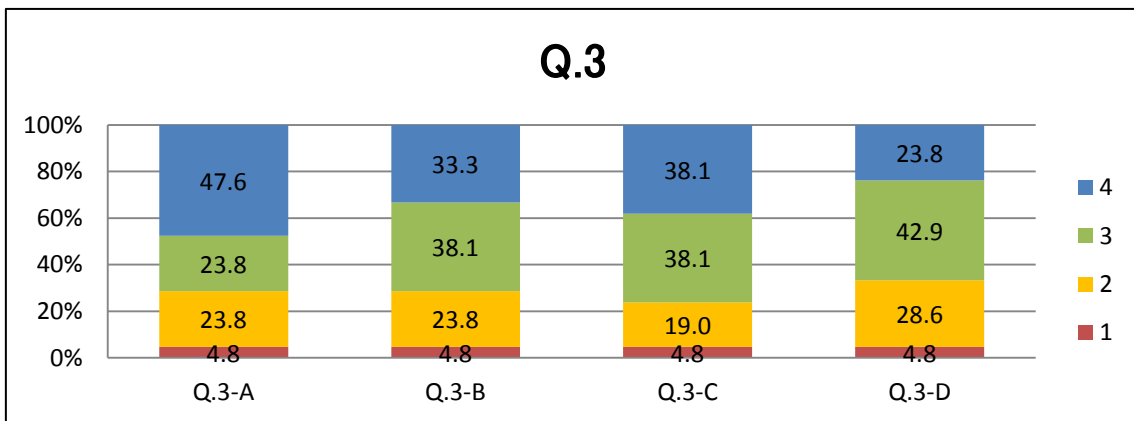
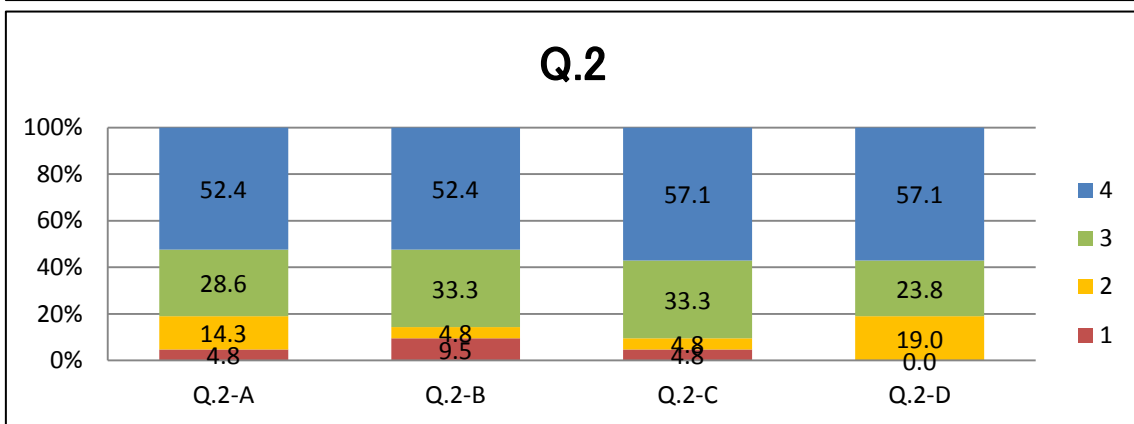
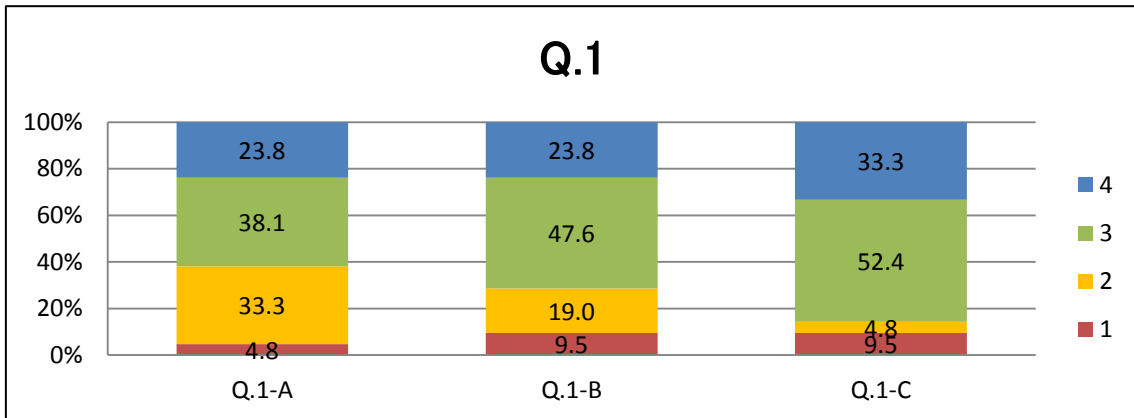
「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」、「良好な人間関係を築ける教員」、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度が、学府全体と比較して極めて高い。また、「情熱をもって研究の指導・支援をしてくれる教員」及び「所属する研究室の雰囲気」に関する満足度も高い。

一方、「進学や就職に対する大学側の支援」に関する満足度は、学府全体と比較して低い。学府全体と比較して、特に低い満足度はない。

### 【今後の課題】

今回のアンケート調査で得られた回答から、動物資源科学専攻における卒業生等の満足度は学府全体における結果に比べ非常に高いものであったと判断される。特に総合的な満足度が非常に高かったことから、教育カリキュラムを始めとする本専攻の教育・研究システムが良好に機能していたものと評価できる。ただし、学府全体と比較して専攻内における回収率がさほど高くなかったことは考慮する必要があるかもしれない。平成 22 年度の大学院再編により、本専攻は資源生物科学専攻の中の動物・海洋生物資源学教育コースへ組み直され、従来の教育内容とは異なるシステムになったが、これまで同様に高い満足度が得られるよう教育コースとして努力することが望まれる。

6) 農業資源経済学専攻 (回収率 52.5%, 修了者数 40 人)





### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は極めて高い。

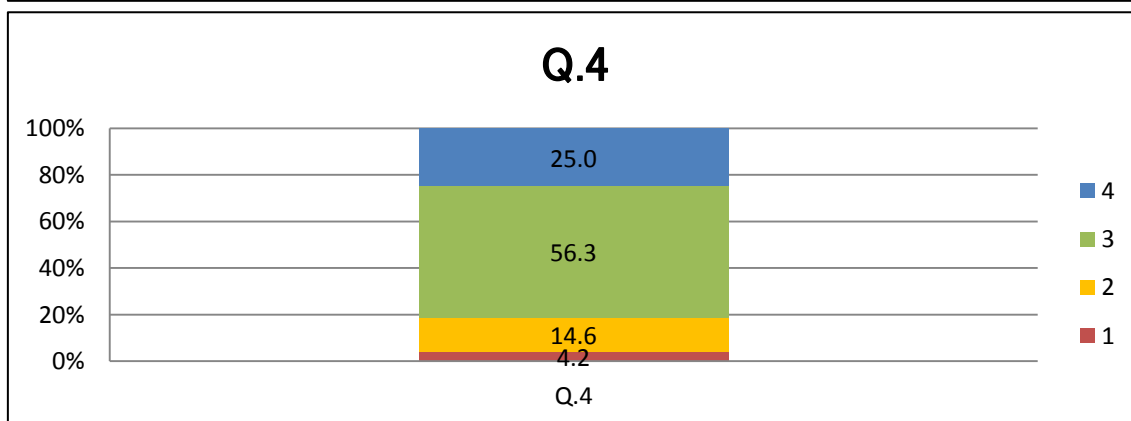
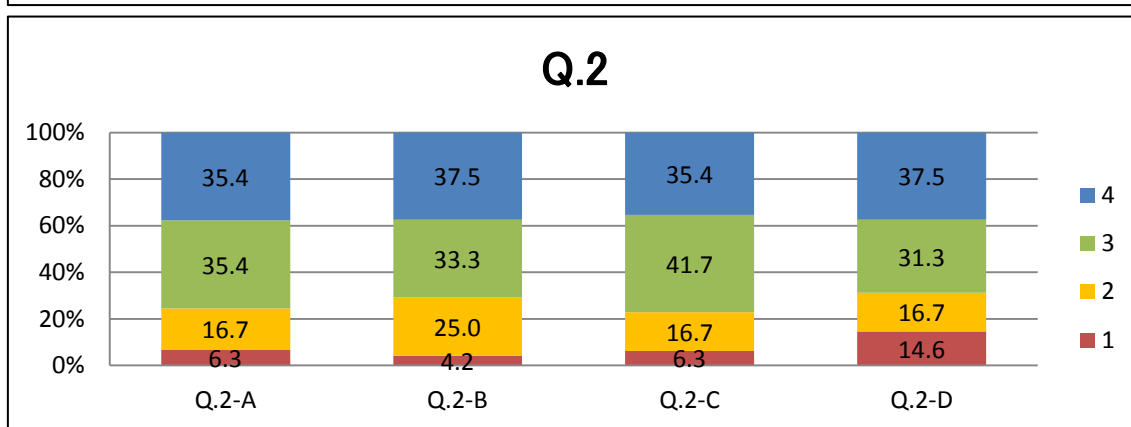
「所属する研究室の雰囲気」以外のすべての項目に関する満足度が、学府全体と比較して極めて高い。また、「所属する研究室の雰囲気」に関する満足度も高い。

学府全体と比較して、低い満足度はない。

### 【今後の課題】

学府全体と比較して、すべての項目で満足度が高いため、すべての項目に関して高い満足度を維持することが今後の課題である。特に、平成 22 年度の学府教育組織の再編にともない、大幅な見直しを行った教育カリキュラムに関する項目については、その見直しが満足度にどのような影響を与えるか、注意深く検証する必要がある。学府全体と比較すれば満足度は高いが、他の項目と比較して満足度が低い「学府での授業」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関しては、満足度がより高くなるよう改善の余地があるかもしれない。

7) 生産環境科学専攻 (回収率 59.3%, 修了者数 81 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は極めて高い。

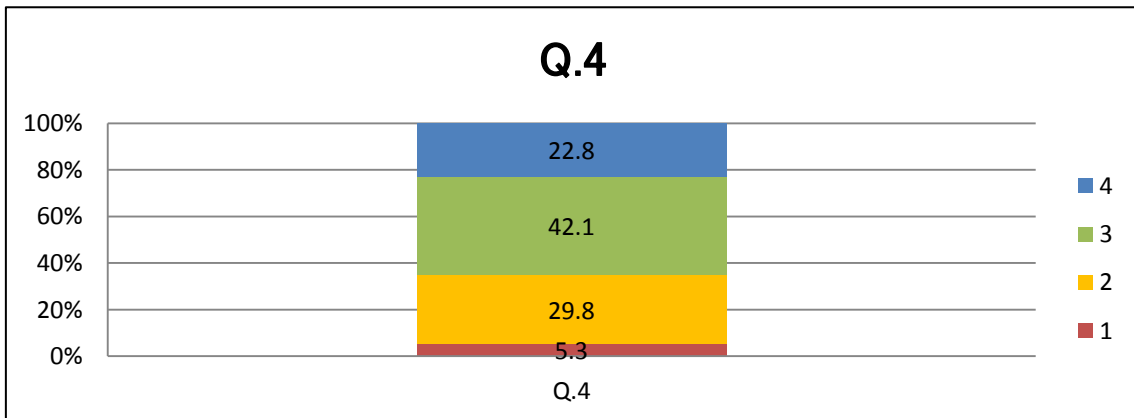
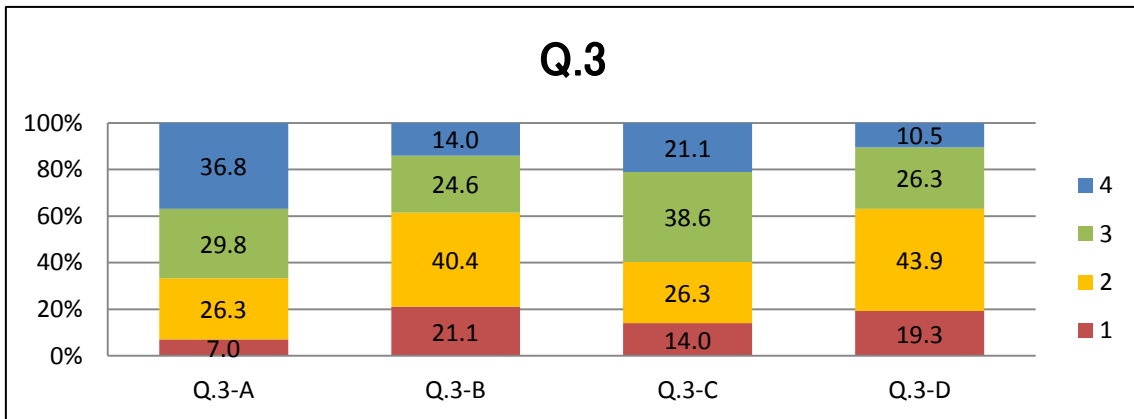
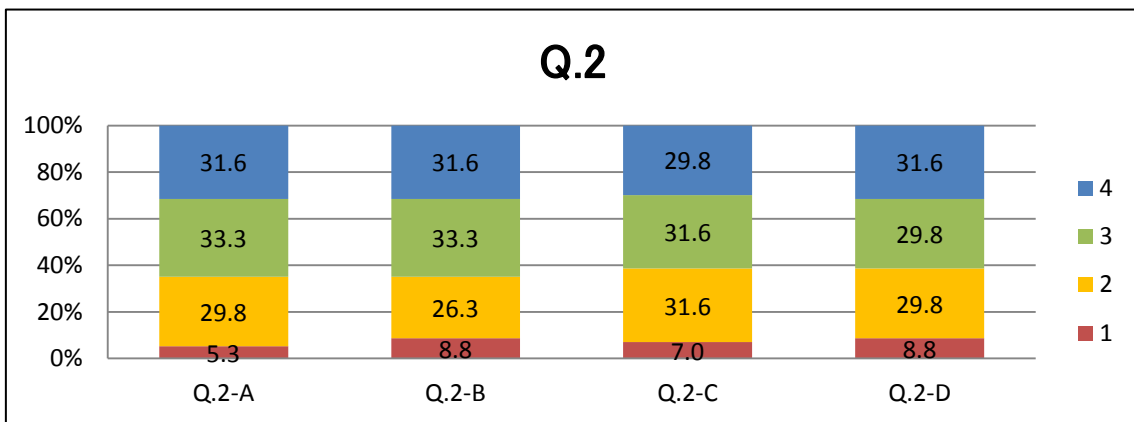
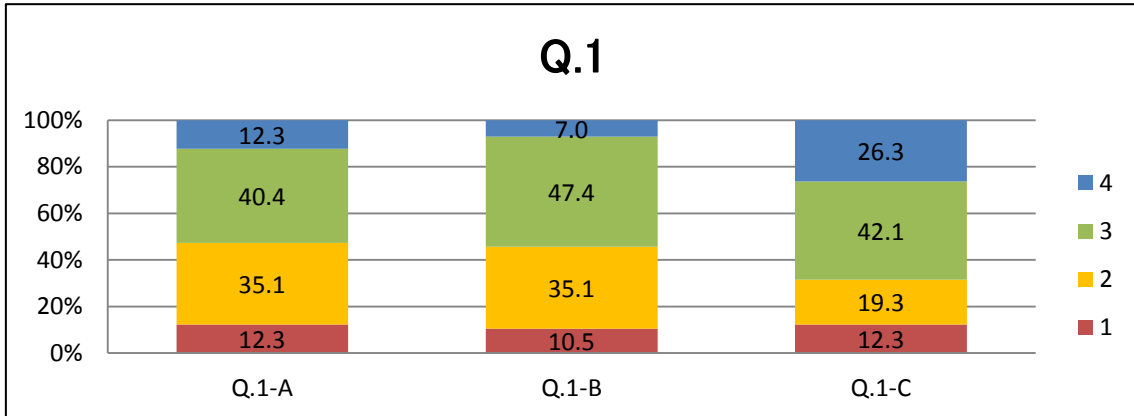
「学府での授業」、「所属する研究室の雰囲気」、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関する満足度が、学府全体と比較して極めて高い。また、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「学府での研究」、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」、「情熱をもって研究の指導・支援をしてくれる教員」及び「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度も高い。

学府全体比較して、低い満足度はない。

### 【今後の課題】

学府全体と比較して、ほとんどの項目で満足度が高いが、すべての項目に関して高い満足度を維持することが今後の課題である。詳細に検討すれば、まず、教育カリキュラムに関しては「学府での授業」や「授業科目」に不満との回答が4割程度ある。学府全体に至っては5割である。早急に原因を究明し満足度を上げるべきであろう。また、学習・研究環境、進学・就職支援に関して学府全体より満足度が高いとはいえ、不満足が4割程度を占めていることは問題である。特に施設・設備と就職支援は満足度の向上に努力すべきであろう。

8) 森林資源科学専攻 (回収率 42.2%, 修了者数 135 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は僅かに高い。

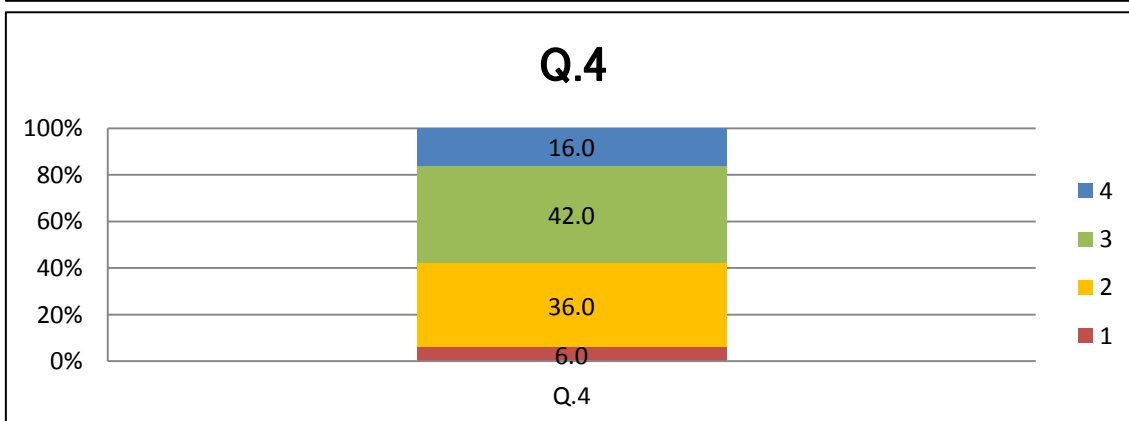
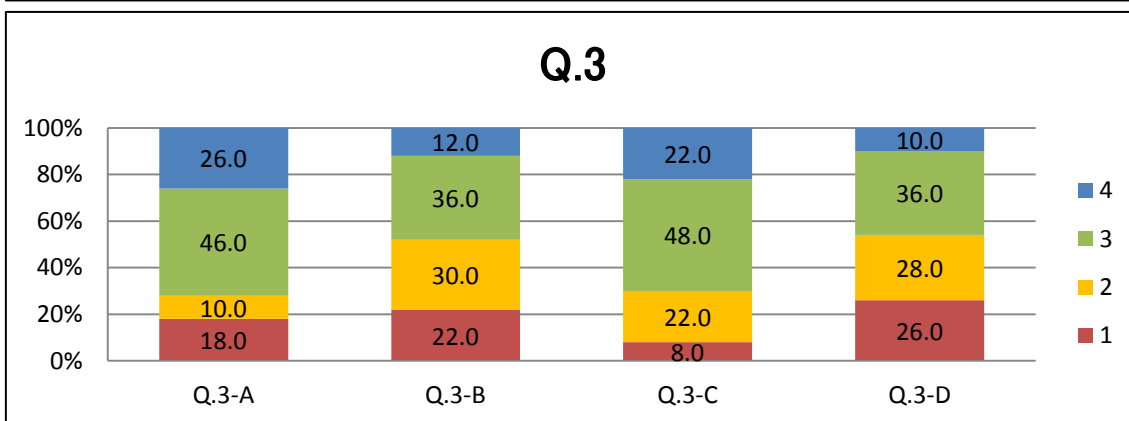
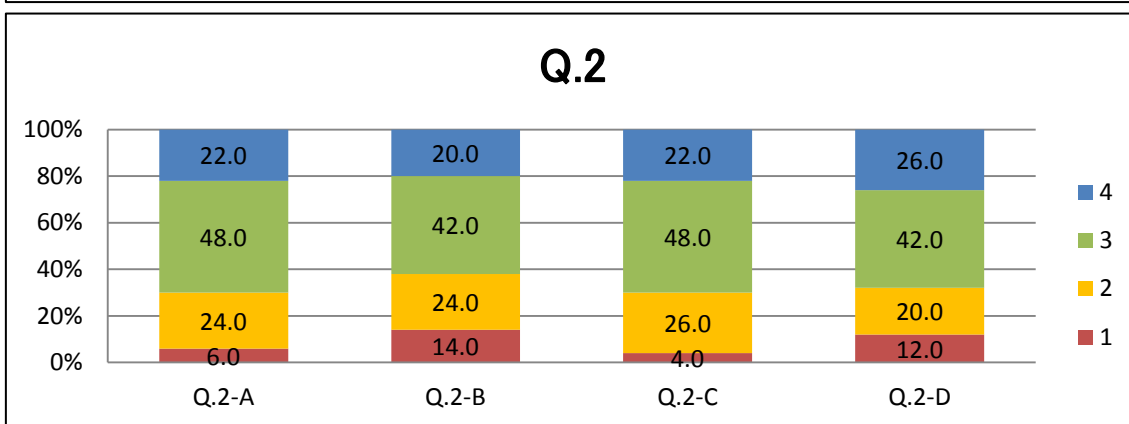
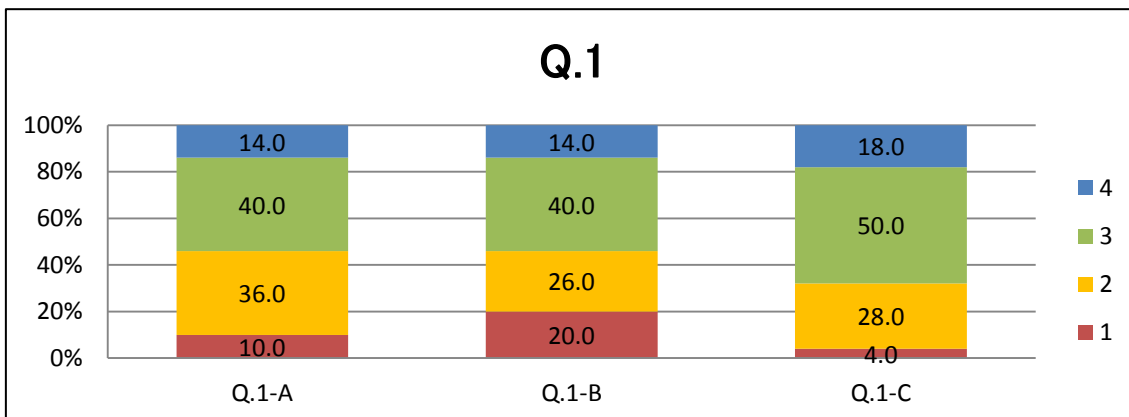
しかし、「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」及び「研究室・キャンパスの学習・研究施設・設備」に関する満足度は、学府全体と比較して高い。

一方、「情熱をもって研究の支援・指導をしてくれる教員」、「良好な人間関係を築ける教員」、「専攻のカリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関する満足度は、学府全体と比較して低い。学府全体と比較して、特に低い満足度はない。

### 【今後の課題】

学府全体と比較して満足度が低い、「情熱をもって研究の支援・指導をしてくれる教員」、「良好な人間関係を築ける教員」、「カリキュラムなどについてのオリエンテーション」及び「進学や就職に対する大学側の支援」に関して、改善していくことが今後の課題である。「情熱をもって研究の支援・指導をしてくれる教員」及び「良好な人間関係を築ける教員」に関しては、複数指導教員制が十分に機能するような体制を確立することが必要であろう。「カリキュラムなどについてのオリエンテーション」に関して、特に外部から入学した大学院生に十分配慮する必要がある。「進学や就職に対する大学側の支援」に関して、何が満足できなかったのか？聞き取り調査を行い、改善点を見つける必要がある。

9) 遺伝子資源工学専攻 (回収率 49.5%, 修了者数 101 人)



### 【分析結果】

学府全体と比較して、総合判定は僅かに低い。

しかし、「研究室・キャンパスにおける学習・研究施設・設備」に関する満足度は、学府全体と比較して極めて高い。また、「学府での授業」、「準備された学府教育の授業科目数や種類」、「勉学・研究の動機づけをしてくれる教員」及び「所属する研究室の雰囲気」に関する満足度も高い。

一方、「研究テーマや方向性に対して十分な助言・討論をしてくれる教員」に関する満足度は、学府全体と比較して低い。学府全体と比較して、特に低い満足度はない。

### 【今後の課題】

ほぼすべての項目で、学府全体と比較すると同程度か高い満足度となっていたが、不満との回答も多くなされており、より満足度を高める改善が必要である。教員に関しては、概ね良好な回答が多かったが、“十分な助言や討論”に関して当てはまらないとの回答が多く見受けられ、改善の必要があると考えられる。本専攻は他大学からの学生が多数在学していたため、学府全体では少数の他大学からの進学者の意見を反映していると思われ、オリエンテーションなどについて、システム面を含めた改善の必要性を示していると思われる。